

トピックス

伊豆半島南部の海岸に軽石が漂着

令和3年8月に小笠原諸島の福徳岡ノ場の海底火山が噴火し、10月に大量の軽石が沖縄周辺に押し寄せて大きなニュースになりました。港を覆った大量の軽石を重機などで撤去している映像はかなりショッキングでした。県では軽石が県内に漂着した場合に備えて、11月上旬に漁業被害の防止の注意喚起を行うとともに、オイルフェンスにより港内への侵入を防止する準備が進められました。11月中～下旬に伊豆諸島北部海域や伊豆大島で軽石の漂流や漂着がみられ、12月2日には南伊豆町の石廊崎漁港と下流漁港に軽石の漂着が確認されました。伊豆半島南部では、12月上旬までに西岸の漁港で軽石の漂着が確認されましたが、多くてもバケツ数杯程度で漁船等の航行に支障はありませんでした。

伊豆分場では南伊豆町への漂着の情報を受けて、12月3日に下田市吉佐美から松崎町松崎にかけて軽石の漂着状況を調査しました。その結果、主に石廊崎より西側で海岸に打ち上げられたり港内に浮かんでいる軽石を確認しました(図1)。軽石の大きさは概ね3cm以下で、色は灰色で表面に小さな黒い粒がみられ、沖縄等に漂着したのと同じ特徴をしていました(図2)。軽石の多くは海岸に打ち上げられたゴミの中に混入しており、発見した量は多くても両手で持てる程度と少なく、西風に流されて海岸に打ち上げられたと考えられました。

軽石は12月10日に御前崎港でも漂着が確認され、大量漂着に備えた対策・準備がとられました。その後は沖縄等でみられたような大量の漂着はありませんでした。



図1 令和3年12月3日に調査した伊豆半島南部の軽石漂着状況

下流の漂着は漁業者による確認結果



図2 仲木地区の海岸で打ち上げられた軽石

(高木康次)